

## 「平成28年度 全国学力・学習状況調査結果(国・県の状況)」の概要

### 1 全国学力・学習状況調査の実施状況

#### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

※H22・24年度は抽出調査、他年度は悉皆調査。

(震災により、H23年度は未実施、H28年度は一部未実施。)

#### (2) 学力調査の実施日 平成28年4月19日（火）

#### (3) 岡山県の実施人数（国・公・私立の合計）＜参考：国 約213万人＞

	小学校【対象：第6学年】	中学校【対象：第3学年】
児童生徒数	16,655人（16,408人）	17,538人（16,613人）

※ 数値は、調査日に実施した国・公・私立学校の児童生徒数。括弧内の数値は、公立学校の児童生徒数。

## 学力の状況（岡山県公立学校の状況）

### 2 学力調査の結果

- 国語、算数・数学のA問題は、主として基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題、B問題は、主として知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。
- 下表中の「差」は、全国と岡山県の平均正答率の差。ただし、H22・24年度は、平均正答率の推計値の差。

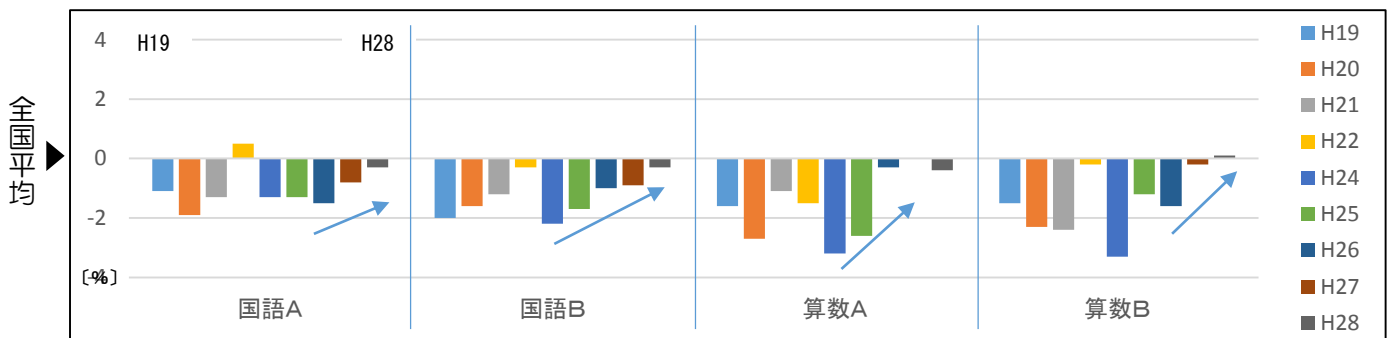
#### (1) 平均正答率 [%]

	年度	国語 A			国語 B			算数 A			算数 B			国算計		
		正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	差		
小学校	H28	県	72.6	-0.3	27	57.5	-0.3	29	77.2	-0.4	27	47.3	0.1	15	25	-0.9
		全国	72.9			57.8			77.6			47.2				
	H27	県	69.2	-0.8	34	64.5	-0.9	31	75.2	0.0	21	44.8	-0.2	23	28	-1.9
		全国	70.0			65.4			75.2			45.0				
	H26	県	71.4	-1.5	38	54.5	-1.0	32	77.8	-0.3	29	56.6	-1.6	38	38	-4.4
		全国	72.9			55.5			78.1			58.2				
	H25	県	61.4	-1.3	33	47.7	-1.7	35	74.6	-2.6	45	57.2	-1.2	30	38	-6.8
		全国	62.7			49.4			77.2			58.4				
	H24	県	80.3	-1.3	42	53.4	-2.2	43	70.1	-3.2	45	55.6	-3.3	46	45	-10.0
		全国	81.6			55.6			73.3			58.9				
	H22	県	83.8	0.5	18	77.5	-0.3	30	72.7	-1.5	42	49.1	-0.2	20	26	-1.5
		全国	83.3			77.8			74.2			49.3				
	H21	県	68.6	-1.3	38	49.3	-1.2	35	77.6	-1.1	36	52.4	-2.4	40	41	-6.0
		全国	69.9			50.5			78.7			54.8				
	H20	県	63.5	-1.9	38	48.9	-1.6	33	69.5	-2.7	44	49.3	-2.3	39	40	-8.5
		全国	65.4			50.5			72.2			51.6				
	H19	県	80.6	-1.1	36	60.0	-2.0	33	80.5	-1.6	41	62.1	-1.5	30	39	-6.2
		全国	81.7			62.0			82.1			63.6				

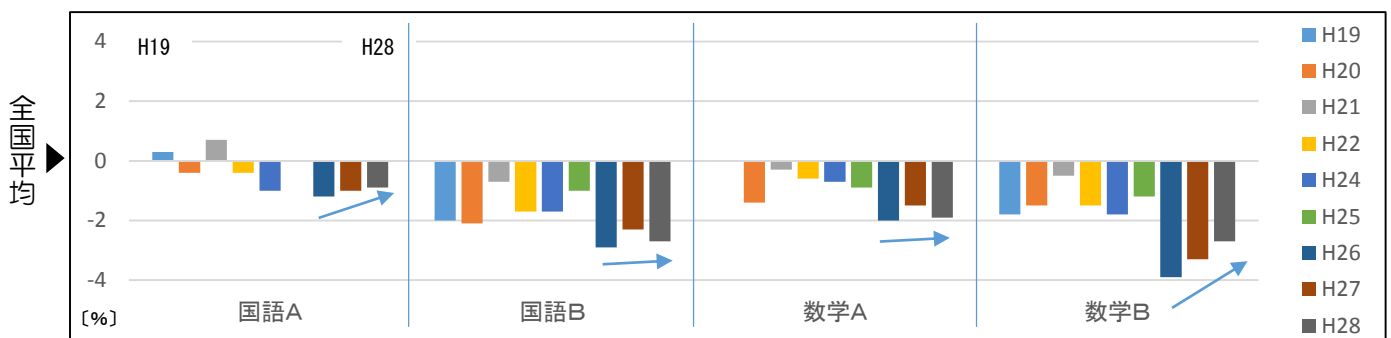
年度	国語 A			国語 B			数学 A			数学 B			国数計		
	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	正答率	差	順位	順位	差	
H28	県	74.7	-0.9	37	63.8	-2.7	42	60.3	-1.9	36	41.4	-2.7	40	41	-8.2
	全国	75.6			66.5			62.2			44.1				
H27	県	74.8	-1.0	38	63.5	-2.3	43	62.9	-1.5	39	38.3	-3.3	43	41	-8.1
	全国	75.8			65.8			64.4			41.6				
H26	県	78.2	-1.2	39	48.1	-2.9	43	65.4	-2.0	41	55.9	-3.9	45	42	-10.0
	全国	79.4			51.0			67.4			59.8				
H25	県	76.4	0.0	30	66.4	-1.0	34	62.8	-0.9	32	40.3	-1.2	31	32	-3.1
	全国	76.4			67.4			63.7			41.5				
H24	県	74.1	-1.0	40	61.6	-1.7	42	61.4	-0.7	31	47.5	-1.8	38	42	-5.2
	全国	75.1			63.3			62.1			49.3				
H22	県	74.7	-0.4	36	63.6	-1.7	42	64.0	-0.6	29	41.8	-1.5	38	37	-4.2
	全国	75.1			65.3			64.6			43.3				
H21	県	77.7	0.7	23	73.8	-0.7	37	62.4	-0.3	28	56.4	-0.5	33	31	-0.8
	全国	77.0			74.5			62.7			56.9				
H20	県	73.2	-0.4	35	58.8	-2.1	43	61.7	-1.4	35	47.7	-1.5	40	41	-5.4
	全国	73.6			60.9			63.1			49.2				
H19	県	81.9	0.3	28	70.0	-2.0	39	71.9	0.0	29	58.8	-1.8	38	38	-3.5
	全国	81.6			72.0			71.9			60.6				

(2) 全国平均との差の推移

【小学校】



【中学校】



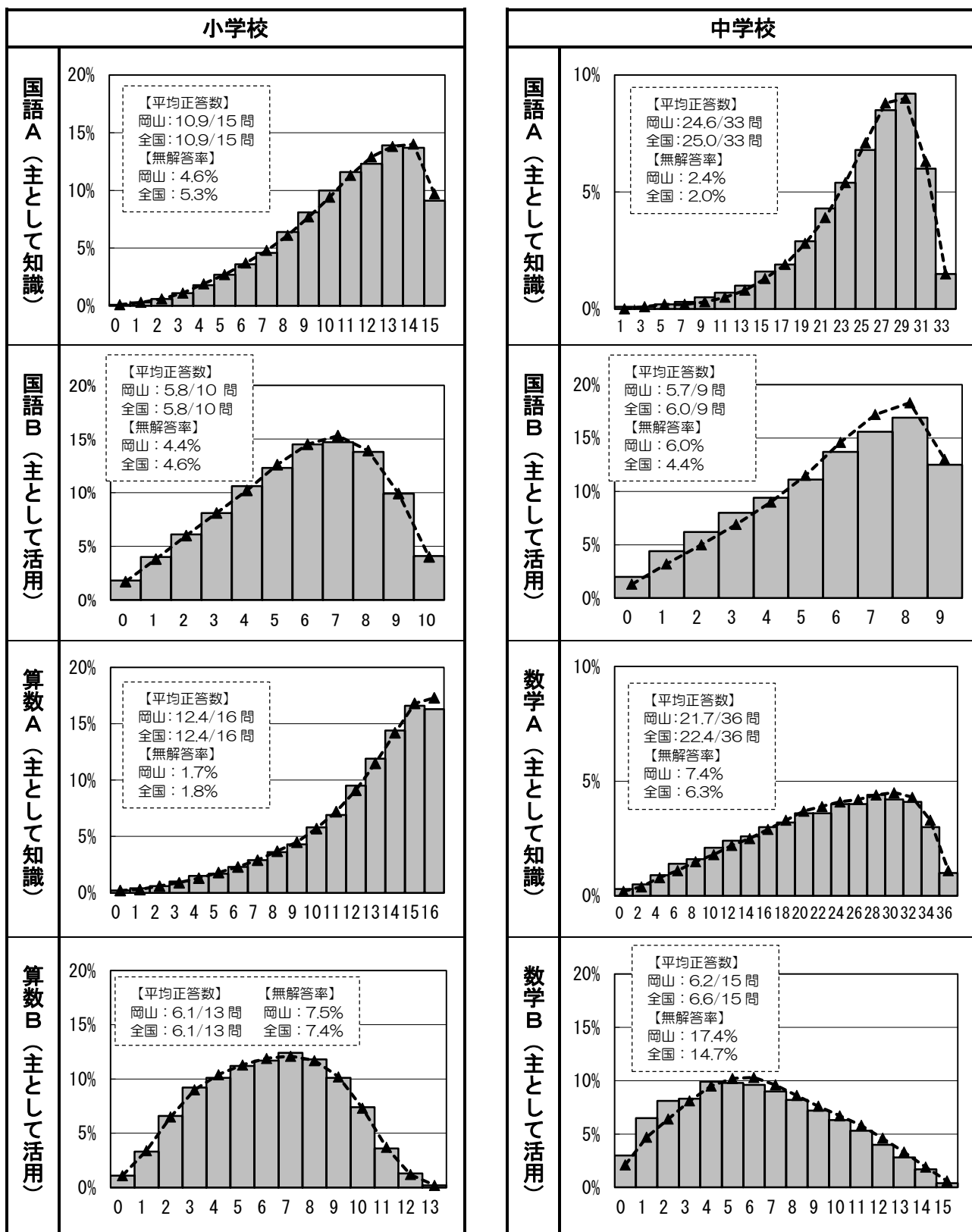
○小学校においては、各科目の全国平均との差が-0.4～0.1〔%〕となり、昨年度と比較しても全国平均との差が縮まってきている。昨年度は算数Aにおいて全国平均に並び、今年度は、算数Bにおいて全国平均を初めて0.1〔%〕上回るなど、学力向上に向けた取組の成果が見られる。

○中学校においては、各科目の全国平均との差が-2.7～-0.9〔%〕となり、昨年度に比べ全国平均との差は縮小しているが、依然として全国平均を下回っており、今後も引き続き、基礎・基本の徹底に向けた地道な取組を継続する必要がある。

(3) 正答数分布(横軸:正答数、縦軸:割合)

岡山県

全国



○小学校においては、平均正答数で全国平均と並ぶとともに、下位層の割合や無解答率が減少し、ほぼ全国と同様の分布になるなど改善が見られる。

○中学校においては、平均正答数の全国平均との差が0.3~0.7問まで近付いているが、本年度の中3生が小6年であった平成25年度の結果と比較した場合、相対的な順位が下がったことに加え、下位層や無解答率も高いことから、課題がより大きくなっていると言える。

### 3 調査問題から見る成果と課題

#### (1) 成果の見られた問題(小学校)

##### 【国語】

	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の全国 (▼) との差		
			県	全国	県	全国	差	-10.0	+10.0
A	1-3	漢字を読む(むだを省くようにする)	83.6	81.0	3.4	5.0	2.6		
	1-2-3	漢字を書く(先生にそうだんする)	69.7	64.2	2.8	5.0	5.5		
B	1-3	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く	51.7	50.4	6.7	7.8	1.3		
	3-3	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く	53.8	52.9	11.1	11.5	0.9		

○A問題の漢字の読み書きの設問については、全国平均を上回る設問数が増えており、一定の成果が見られる。

○昨年度までは、目的に応じて自分の考えを明確にしなが、指定された字数で解答する設問に課題があったが、教員が児童の誤答を類型に従って分類した上で、典型的な誤答を例示しながら、正答の条件を確認し、全員で正答に導くことができるかを考えさせる指導を充実した結果、全国平均を上回る設問が見られた。

##### 【算数】

	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の全国 (▼) との差		
			県	全国	県	全国	差	-10.0	+10.0
A	1(1)	$\square \div 0.8$ の商の大きさについて、正しいものを選ぶ	67.6	64.8	1.7	1.8	2.8		
	2(2)	$4.65 + 0.3$ を計算する	80.9	77.1	0.5	0.5	3.8		
	2(3)	$18 \div 0.9$ を計算する	81.8	77.7	1.0	1.1	4.1		
	9(1)	前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く	80.8	80.2	4.3	4.2	0.6		
B	1(2)	正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が $4\text{cm}^2$ 小さくなることの説明を書く	48.1	45.2	3.5	4.0	2.9		
	2(2)	40mハードル走の目標のタイムを求める式に8.1と4を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く	54.4	50.5	4.1	4.2	3.9		

○平成24年度の全国調査で最も課題があった小数の加法・減法を指導するに当たって、典型的な誤答を共通理解し、その課題解消に向けた取組を学校全体で進めた結果、A問題、B問題に共通して、主に「数と計算」領域の設問や、与えられた課題の解決方法を説明する設問については、全国平均を上回る設問数が増えており、一定の成果が見られる。

○問題を読むときに「答え方(問われていること)」に対して、解くために必要な条件を確認させ、言葉や式を使って説明するための書き方等の指導に取り組んだり、学年や単元の繋がりを意識した系統的な指導の充実を図ったりするなど、算数科における授業改善を進めた結果、B問題で初めて全国平均を超えるなどの成果に結び付いたと考えられる。

(2) 課題の残る問題(小学校)

【国語】

	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の全国 (▼) との差		
			県	全国	県	全国	差	-10.0	+10.0
A	3	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する	65.9	67.4	0.2	0.2	-1.5		
	8・3	ローマ字を読む (hyaku)	47.5	50.7	18.9	20.0	-3.2		

○書く活動は徐々に充実してきているが、引き続き、条件に沿って書いたり、書く目的や意図に応じ、文章全体の構成を考えながら適切に書いたりすることができるよう系統的な指導を行うとともに、文章の種類や特徴を捉えた上で、目的等に応じた文章構成や表現になっているかどうかを教師が評価するだけでなく、児童同士が助言し合ったり、児童自らが確認したりする学習活動を充実させていくことが必要である。

○ローマ字の指導に当たっては、情報機器の活用や他の学習活動等の関連を考慮しながら、第3学年で学習した後も、繰り返し読んだり書いたりする機会を確保することが大切である。

【算数】

	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の全国 (▼) との差		
			県	全国	県	全国	差	-10.0	+10.0
A	3(1)	7.1、7、7.01の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	70.8	74.1	0.4	0.4	-3.3		
	5	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ	76.3	82.0	1.1	1.1	-5.7		
	9(2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	44.5	50.9	5.7	5.7	-6.4		
B	3(3)	1辺が9cmの正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ	75.4	76.5	2.0	1.9	-1.1		

○「量と測定」や「図形」領域の設問について依然として課題が見られた。更なる定着に向けては、身に付けた知識・技能を活用しながら解決につなげる学習過程を大切に、課題を解決するに当たっては、与えられた条件を整理し、筋道を立てて考えることができるように話し合い活動を取り入れた授業づくりに取り組むことが大切である。また、解決に当たっては、実際に計算に用いる長さを問題文中に書き込ませたり、補助線を引かせたりする活動や、三角定規やコンパスなどを利用しながら図形の性質を理解させる操作的な活動を積極的に取り入れることが求められる。

○身に付けた知識・技能を活用しないと定着が図られないため、児童一人一人へのきめ細やかな指導を行うとともに、意図的・計画的に単元や学年を超えた復習の機会を設定するなど、既習の知識・技能を活用する課題の出し方の工夫などが引き続き求められる。

(3) 成果の見られた問題(中学校)

【国語】

	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の全国 (▼) との差		
			県	全国	県	全国	差	-10.0	+10.0
A	9三ウ	適切な語句を選択する(弟子を手塩にかけて育てる)	60.4	59.3	1.1	1.1	1.1		
	9七1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(追ひし)	82.9	80.2	4.8	4.4	2.7		

○過去の調査において、課題が見られた慣用句の意味や敬語の働きの設問の正答率が全国平均を上回ったことから、教員が意図的に慣用句やことわざを取り上げたり、掲示物や配付物に取り入れたりした成果が見られている。

○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことには、一定の成果が見られたことから、引き続き、古典などの文章を音読したり朗読したりする指導を充実させることが大切である。

【数学】

	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の全国 (▼) との差		
			県	全国	県	全国	差	-10.0	+10.0
A	4(1)	与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ	33.5	30.9	0.9	0.8	2.6		
	9(3)	反比例を表した事象を選ぶ	42.3	42.0	1.7	1.3	0.3		
	9(4)	反比例のグラフから式を求める	37.4	34.5	16.3	14.8	2.9		

○過去の調査において課題が見られ、生徒が苦手とする分野である反比例に関連する設問の正答率が全国平均を上回った。このことから、基礎的・基本的な知識や技能の定着に当たっては、定着に向けて繰り返し適切な指導を行うことが大切である。

(4) 課題の残る問題(中学校)




【国語】

	設問番号	設問の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の全国 (▼) との差		
			県	全国	県	全国	差	-10.0	+10.0
A	7一	相手の発言をどのように聞いているのかを説明したのとして適切なものを選択する	66.9	70.6	0.7	0.5	-3.7		
	7二	話合いを踏まえた発言として適切なものを選択する	61.0	62.0	0.9	0.6	-1.0		
B	1三	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く	63.7	68.0	11.7	7.8	-4.3		

○話の展開に注意しながら聞き、自分の考えと比較したり、発言を検討して自分の考えを広げたりすることができるかを問う設問に課題が見られたことから、ノートなどに相手の主張や根拠をメモしながら聞き、聞き取った内容が適切かどうかを確認した上で、自分の考えと比較するような学習活動を充実させることが必要である。

○書く目的や意図に応じ、文章全体の構成を考えながら適切に書くことができるように指導するとともに、文章の種類や特徴を捉えた上で、目的等に応じた文章構成や表現になっているかどうかを自分で確認する習慣を身に付けさせることが大切である。

【数学】

	設問 番号	設問の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の全国 (▼) との差			
			県	全国	県	全国	差	-10.0	▼	+10.0
A	2(2)	$(2x+5y)+3(x-2y)$ を計算する	80.0	84.0	3.8	2.5	-4.0			
	9(2)	比例 $y=2x$ について、 $x$ の値が1から4まで増加したときの $y$ の増加量を求める	35.5	39.4	14.5	12.1	-3.9			
	10(3)	一次関数のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求める	37.3	43.0	21.5	18.9	-5.7			
B	2(1)	一次関数の表から $x=4$ のときの $y$ の値を求める	52.9	59.1	12.3	8.7	-6.2			

- 過去の調査において、課題が見られた「数と式」の領域の設問に、引き続き課題が見られる。計算力は、数学の学習における根幹であり、生徒の実態に応じて個別指導をしたり、演習時間を十分に確保したりするなど、定着するまで粘り強く取り組ませる取組を早急に実施することが求められる。
- 全国的に正答率が低い「関数」分野の設問については、生徒がどこにつまずきやすいのかをきちんと把握した上で、より丁寧に指導することが求められる。特に、「変域」や「変化の割合」など、基本的な用語の意味をしっかりと理解させるとともに、設問において何が問われていて、どう解決をすればよいのかという、解決に当たっての道筋を明確にするための指導の更なる工夫が求められる。

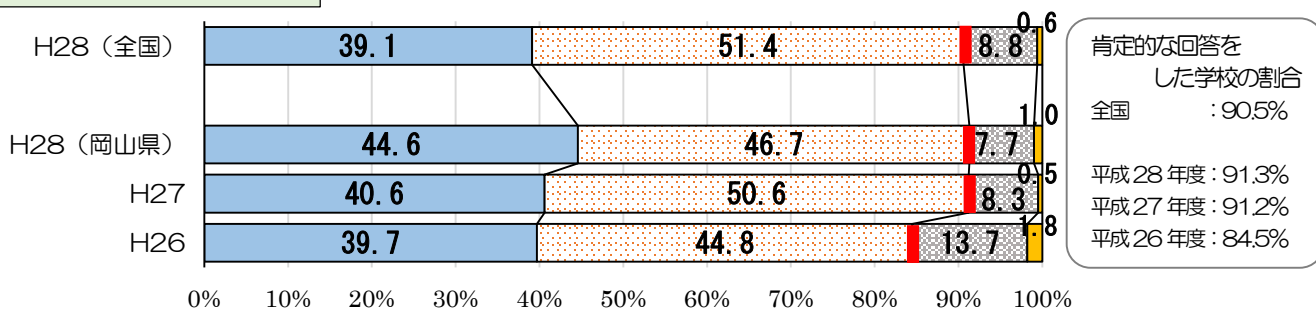
# 学習の状況（岡山県公立学校の状況）

## 4 学力調査の結果

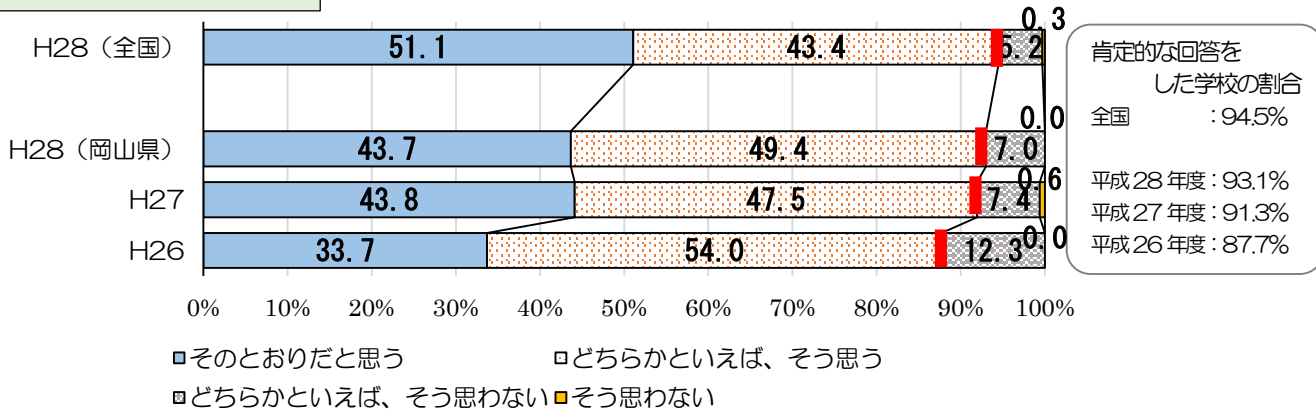
- 児童生徒質問紙は、児童生徒一人一人が回答し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。
- 学校質問紙は、各校の代表者が回答し、学校における指導方法に関する取組や学校における人物・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査。

### Q:学校の授業で、私語が少なく、落ち着いた雰囲気の中で学習ができていましたか。

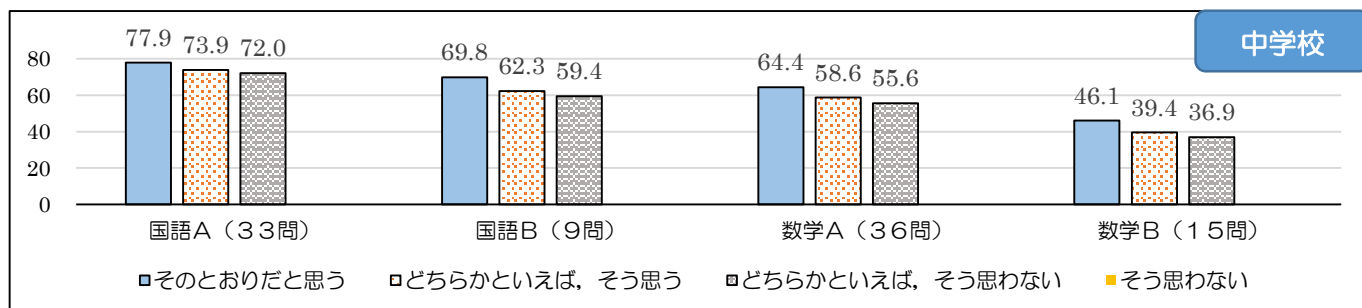
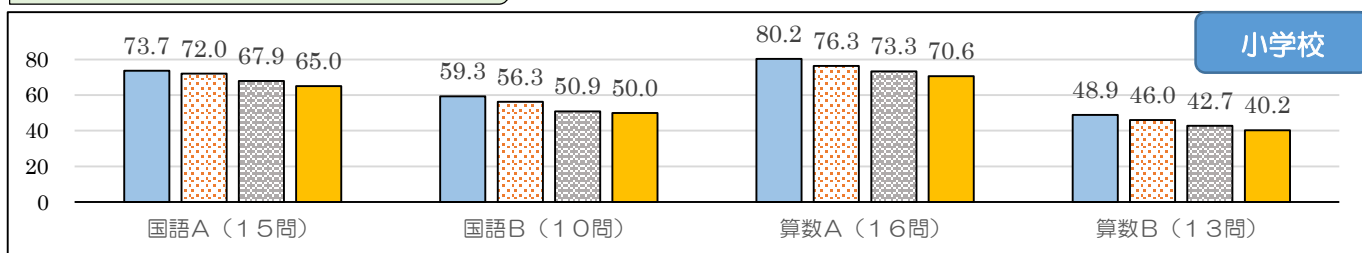
#### 【学校質問紙】小学校



#### 【学校質問紙】中学校



#### 学力調査結果と質問項目の相関関係

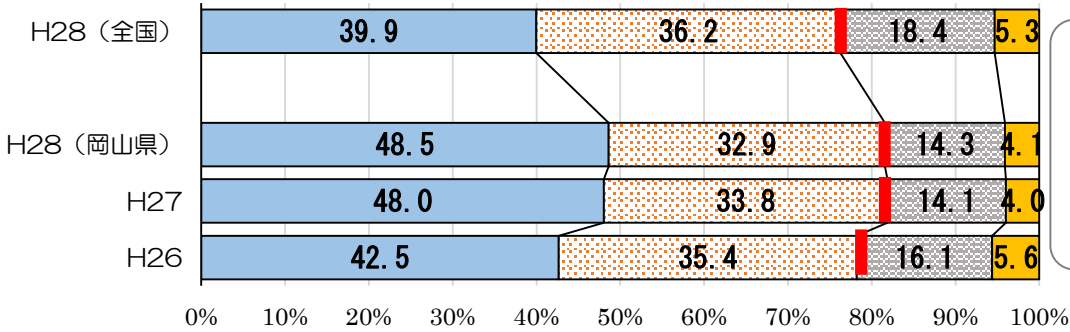


- 「授業中の私語が少なく、落ち着いた雰囲気の中で学習ができていた」と回答した児童生徒の割合が増加しており、「学習指導のスタンダード」の「授業を支える学習基盤」等の整備が進んできていると言える。



Q: 授業の終わりに、学習のまとめや振り返りをしていましたか。

【児童生徒質問紙】小学校



肯定的な回答をした児童の割合

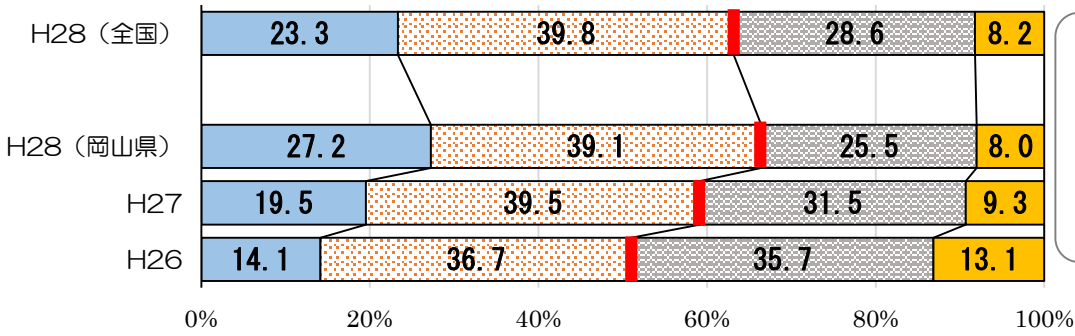
全国 : 76.1%

平成28年度: 81.4%

平成27年度: 81.8%

平成26年度: 77.9%

【児童生徒質問紙】中学校



肯定的な回答をした生徒の割合

全国 : 63.1%

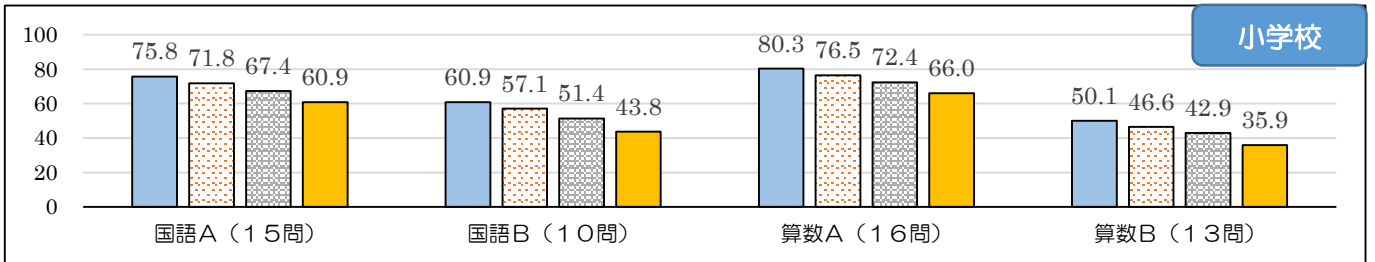
平成28年度: 66.3%

平成27年度: 59.0%

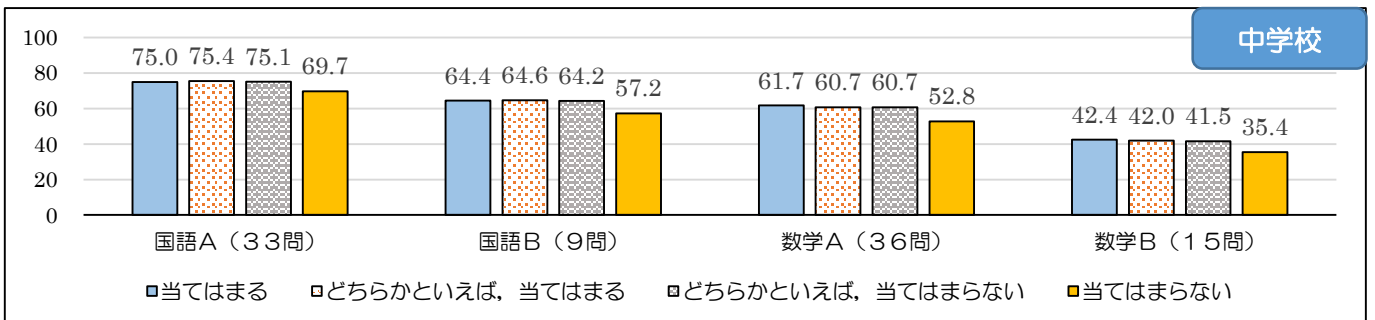
平成26年度: 50.8%

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる  
 ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

学力調査結果と質問項目の相関関係



小学校



中学校

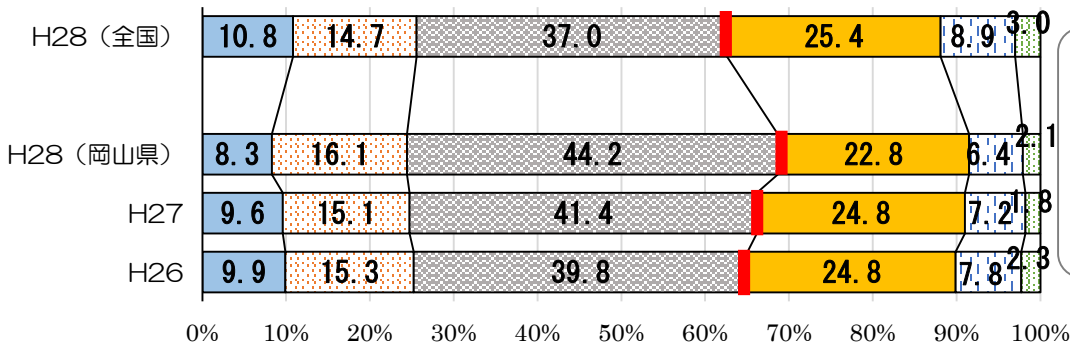
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

○「授業のはじめに、学習のねらいや目標が示されていた」や「授業の中で、グループで様々な考えを出し合ったり、考えを深め合ったりしていた」「授業の終わりに、学習のまとめや振り返りをしていた」などの項目で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加しており、「学習指導のスタンダード」に基づいた授業改善が進んでいると言える。

○中学校においては、まとめや振り返りにつながるような、めあての質的向上を図る必要がある。

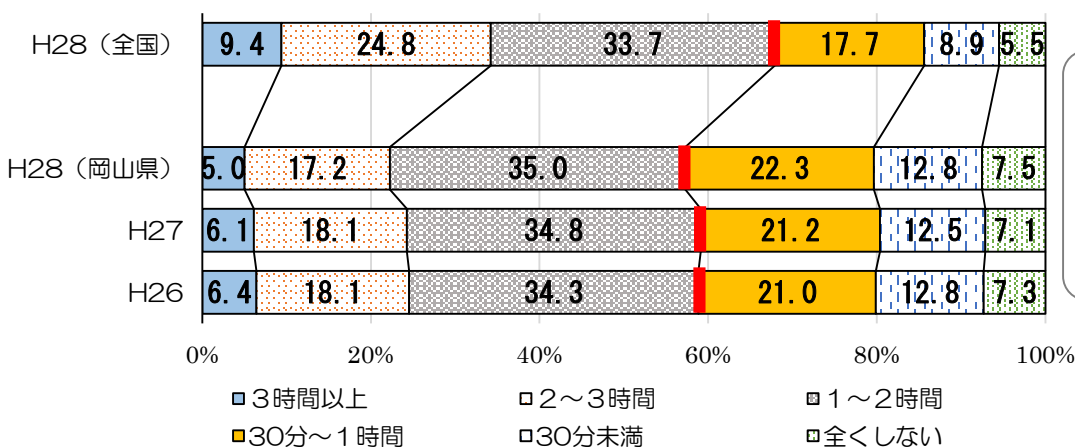
**Q:学校の授業時間以外で、ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。**

【児童生徒質問紙】小学校



「1時間以上」と回答をした児童の割合  
 全国 : 62.5%  
 平成28年度 : 68.6%  
 平成27年度 : 66.1%  
 平成26年度 : 65.0%

【児童生徒質問紙】中学校

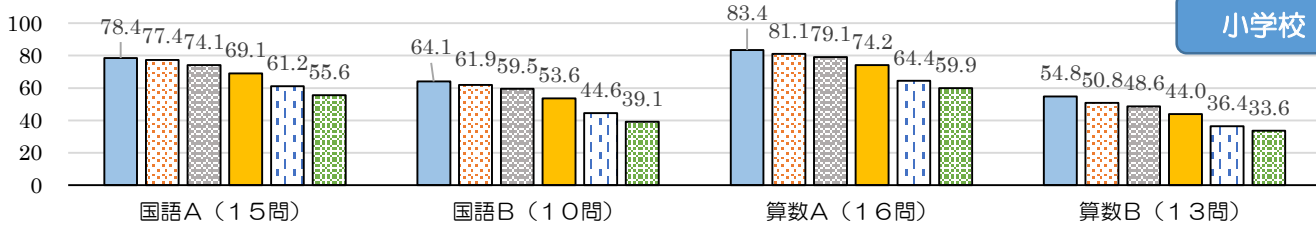


「1時間以上」と回答をした生徒の割合  
 全国 : 67.9%  
 平成28年度 : 57.2%  
 平成27年度 : 59.0%  
 平成26年度 : 58.8%

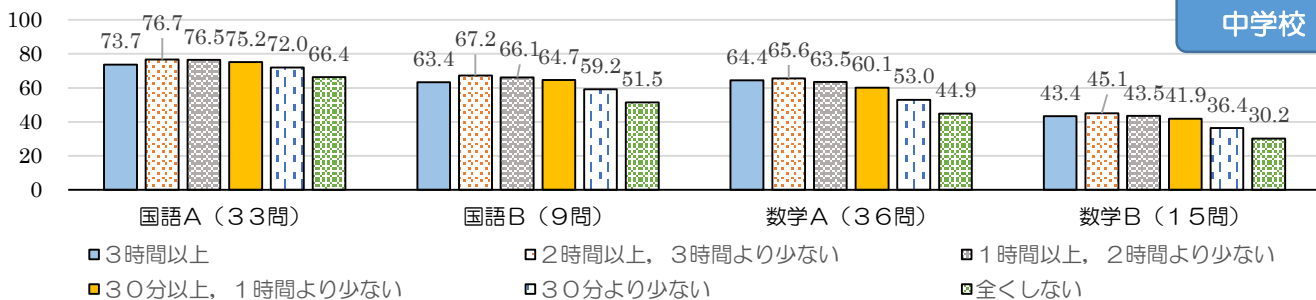
■ 3時間以上      □ 2~3時間      ■ 1~2時間  
 ■ 30分~1時間      □ 30分未満      ■ 全くしない

学力調査結果と質問項目の相関関係

小学校



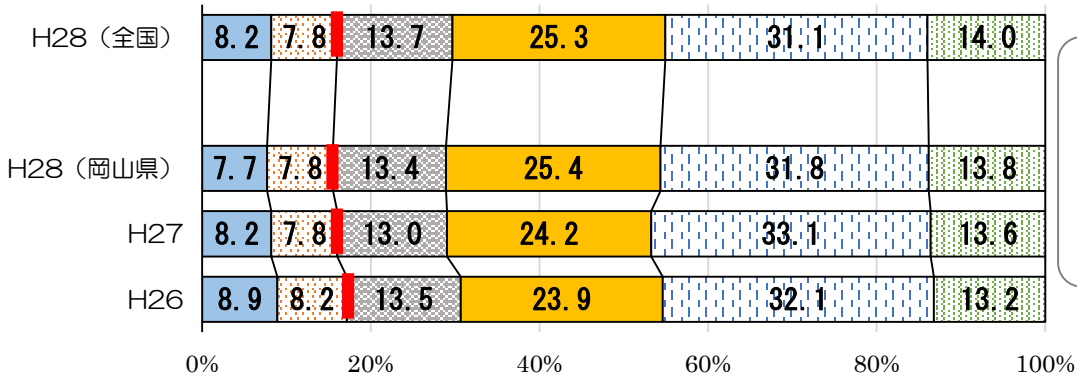
中学校



○授業以外の学習時間が「1時間以上」と回答した児童の割合は増加しており、家庭との協力を得ながら「家庭学習のスタンダード」に基づいた生活習慣の改善、学習習慣の定着が進んでいると言える。  
 ○一方、中学校では「1時間以上」と回答した生徒の割合は減少しており、小学校で培った家庭学習習慣の継続に課題があると言える。課題の質や量、与え方も含めて、家庭学習につなげる授業づくりを、全教職員で再度「家庭学習のスタンダード」に基づいて検討する必要がある。

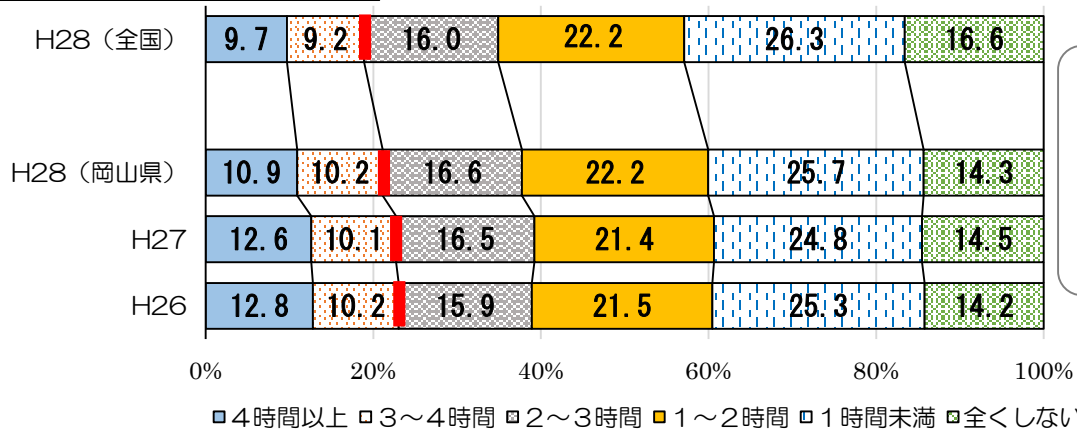
**Q:ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、スマホのゲーム等をふくむ。)をしますか。**

【児童生徒質問紙】小学校



「3時間以上」と回答をした児童の割合  
 全国 : 16.0%  
 平成28年度 : 15.5%  
 平成27年度 : 16.0%  
 平成26年度 : 17.1%

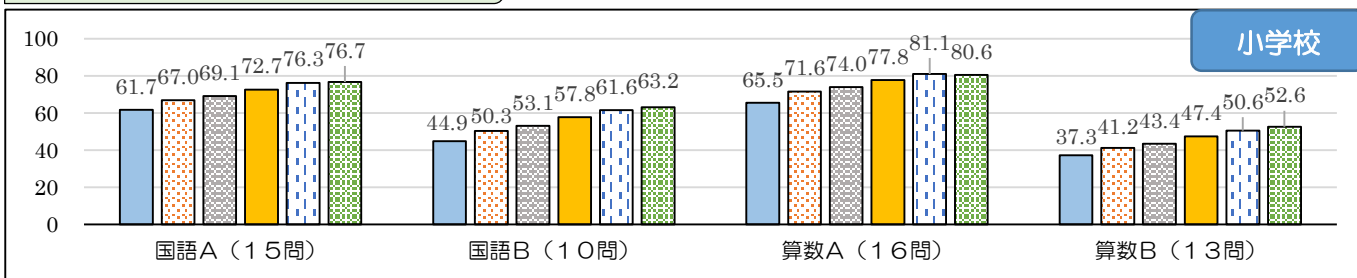
【児童生徒質問紙】中学校



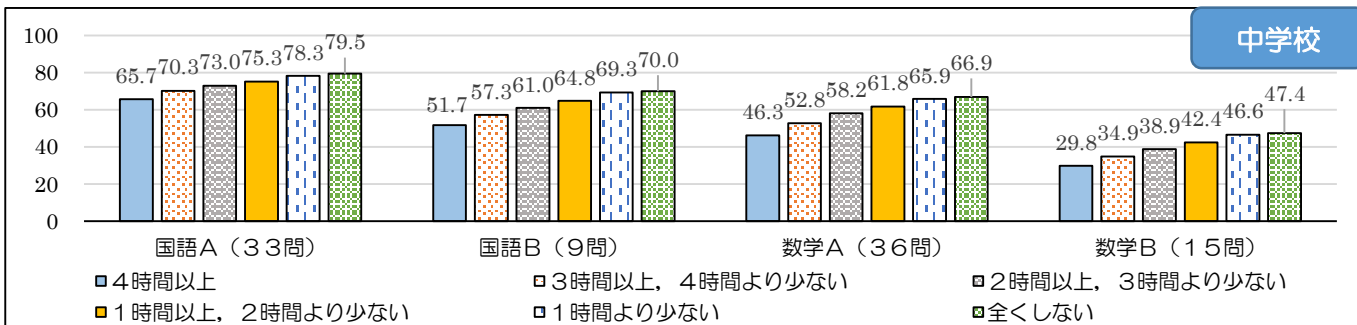
「3時間以上」と回答をした生徒の割合  
 全国 : 18.9%  
 平成28年度 : 21.1%  
 平成27年度 : 22.7%  
 平成26年度 : 23.0%

■ 4時間以上 □ 3~4時間 ▨ 2~3時間 ■ 1~2時間 ▩ 1時間未満 □ 全くしない

学力調査結果と質問項目の相関関係



小学校



中学校

○携帯電話やスマートフォンの所持率が上昇しているにもかかわらず、「平日3時間以上テレビゲーム(携帯電話・スマートフォンも含む)をしている」と回答した児童生徒の割合が少しずつ減少しており、県教委が推奨している「プラスマイナス15分」の取組が広がっていると言える。

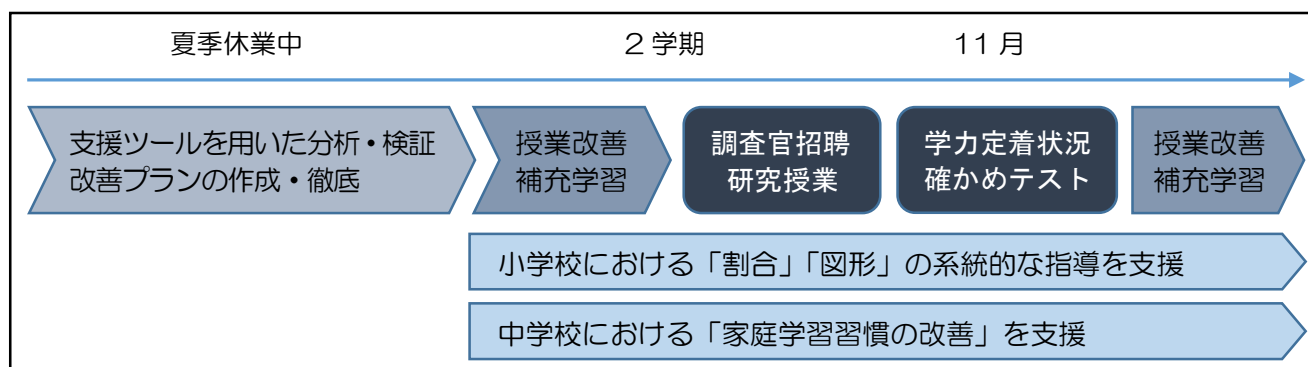
## これまでの取組の成果と今後の取組等

### 5 県教育委員会のこれまでの取組とその成果

- 課題を明確にし、学力向上に向けた取組のポイントを「落ち着いた学習環境」「授業改善」「学習習慣の定着」「生活習慣の改善」の4点に焦点化し、取組を進めてきた。
- 授業で押さえるべきポイント等を示した「学習指導のスタンダード」（H26年6月 県教委が作成）に基づいた授業改善を徹底してきた結果、めあて・まとめ等に関する項目で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加しており、校内での統一した授業改善が進んできている。また、本年2月に「活用に関する問題の解説例」を作成・配付し、活用型問題へのアプローチにおいて、書く活動の質的向上について示した結果、特に小学校においては、書くことに対する抵抗感が減少し、国語Bの記述問題や算数B問題において、全国平均を上回る結果に結び付けることができた。
- 児童生徒の家庭学習習慣定着のための基本的な考え方や指導方法等をまとめた「家庭学習のスタンダード」（H27年11月 県教委が作成）に基づき、家庭との連携を図りながら、スマホ・ネットの使用時間制限と併せ、学習時間の確保に向けて「プラスマイナス15分」を呼び掛けるとともに、「放課後学習サポート事業」を拡充してきた結果、学習習慣・生活習慣に関する項目においても、前年度より肯定的な回答をした児童の割合が増加した。しかし、中学校では依然として課題が残っており、学校全体での更なる取組の推進が必要である。
- 授業改善の徹底に向けて、「魅力ある授業づくり徹底事業」による重点的・継続的な支援や、「授業改革推進リーダー・推進員配置事業」の拡充により、学校・地域ごとの課題への対応を行った。また、全国学力調査問題を大問ごとに整理し、単元・学期・学年を超えた振り返りや日常的な補充学習に活用できる「ふりかえりプリント集」を配付し、つまずきの解消を図ったことで、効果的に活用を図った学校で特に成果が見られた。

### 6 本調査実施後に取り組むこと

「何を」「いつまでに」「どこまで」「どのように」行うのかを明確にして取り組む。



- 県教委は、小学校における「割合」「図形分野」の指導の徹底を図るため、学校が系統性をもった指導が行えるよう支援する。  
中学校における家庭学習習慣の改善を図るため、家庭学習につながる授業づくりを進めるとともに、「家庭学習のスタンダード」に基づき、早期に宿題の質と量、与え方や評価の仕方の見直しを学校全体で協議した上で、取組の推進を図れるよう支援する。  
国の学力調査官（小・中4名）を招聘した研究授業を実施することで、国が求める学力観に基づいた授業を公開するとともに、市町村教委と更に連携して、優良実践や授業改善の好事例を収集し、普及に向けての取組を進める。
- 市町村教委は、今年度より校務分掌に位置付けた学力向上担当者等による研修会を実施し、課題の分析・検証をし、改善プランの作成とともに、その実現に向けて校内で徹底することを徹底させるべく指導を行う。
- 学校は、児童生徒のつまずきの解消に向けて、効果的な補充学習を実施するとともに、「家庭学習のスタンダード」に基づき、家庭学習の工夫に向けて、家庭・地域との連携の更なる推進を図るとともに、児童生徒一人一人に応じて早期につまずきの解消を図るべく「ふりかえりプリント集」や「学習到達度確認テスト」を活用する。